

中央コーポレーション
創立50周年記念誌

50th

中央コーポレーション
創立50周年記念誌

50th



中央製作所時代の社は「和を以て貴しと為す」

株式会社中央コーポレーション

経営理念

顧客第一主義、鋼と建設の高度な技術で社会に貢献します

基本方針

- ① 顧客の生涯の最大化を目指します
- ② 社員及び関係者の物心両面の幸福を目指します
- ③ グループ企業の永続的発展を目指します



目次

CONTENTS

ごあいさつ

株式会社中央コーポレーション 代表取締役 佐々木 史昭	1
-----------------------------	---

祝辞

岩手県知事 達増 拓也様	3
花巻市長 上田 東一様	4
花巻商工会議所 会頭 宮澤 啓祐様	5
岩手県鉄構工業協同組合 理事長 小山田 周右様	6
東日本旅客鉄道株式会社 執行役員 構造技術センター所長 野澤 伸一郎様	7
株式会社横河住金ブリッジ 代表取締役社長 小山 清一様	8

第1章 ～源流～ 花巻城御用大工の流れを組む高常組製作所

(明治、大正期～昭和13年)

花巻城の御用大工	9
高常組製作所	9
函館での起業	11

第2章 ～前史～ 有限会社花巻鉄工所 (昭和15年～昭和24年)

伊藤進康氏、元社員 伊藤進氏、及川健氏、佐々木邦夫氏に聴く ～花巻第一の会社でした～	12
---	----

第3章 中央製作所Ⅰ (相生町) 初代社長／高橋 吉助 (昭和26年～昭和40年)

元社員 伊藤昌六氏、阿部正夫氏、滝田矢子氏、伊藤銚一氏に聴く ～やりがいのある会社でした～	17
元花巻市助役 戸来諭氏に聴く ～先見の明ある措置でした～	23

第4章 中央製作所Ⅱ (宮野目) 第二代社長／佐々木 郁夫 (昭和41年～昭和60年)

元社員 畠山由二氏、藤井千三氏、現社員 西塚保氏に聴く ～発展につぐ発展でした～	25
元常務 岩崎安男氏、中央石油常務 高橋安英氏に聴く ～時代の先を読む経営～	32
前花巻地区鉄構工業会会長 菊池章氏 ～花巻鉄工業協同組合のこと～	38

第5章 中央製作所Ⅲ (昭和61年～平成14年)

菅原博常務に聴く ～新たな幕開け、地道な発展～	41
-------------------------	----

第6章 中央コーポレーション 第三代社長／佐々木 史昭 (平成15年～現在)

合併	47
----	----

大幅赤字を経験	47
いわゆる91社問題による排除勧告	48
人事刷新と社員の増加	49
徐々に黒字体質へ	50
積極的な設備投資	51
東日本大震災	53
災害復旧・復興工事	54
人を活かす経営	56
新技術への取り組み	58
終わりに	59

Archive I

【講演録】初代社長高橋吉助の講演より(昭和58年1月23日)	60
--------------------------------	----

Archive II

【講演録】第二代社長佐々木郁夫の講演より(昭和55年10月4日)	63
----------------------------------	----

Archive III

【2015年正月年頭の辞】第三代社長佐々木史昭(平成27年1月5日)	64
------------------------------------	----

資料

1. 50周年記念行事	
<1>50周年記念「社章」制作	71
<2>岩手県立花巻北高等学校桜雲同窓会へ100万円寄付	72
<3>50周年記念「工場リフレッシュ計画」	73
<4>創立記念日橋梁点検清掃ボランティア	74
<5>50周年記念社員旅行	78
2. 主な工事実績	79
3. NETIS技術	95
4. 資格者一覧	100
5. 会社年表及び沿革	101
6. 中央コーポレーション合併後の年表	105
7. 組織図	106
8. 役員在任期間一覧	107
9. 経営状況推移	109
10. 表彰状・感謝状一覧	112
11. 役員	117
12. 集合写真	118
13. 部署写真	119
14. 社内安全ポスター&標語コンテスト	124
15. 社内ゴルフコンペ結果一覧	127

編集後記(記念祝賀会の紹介も含めて)	128
--------------------	-----



ごあいさつ

株式会社中央コーポレーション
代表取締役 佐々木 史昭

株式会社中央コーポレーションは、創業者の高橋吉助が個人営業していた中央製作所を昭和40年（1975年）10月4日に株式会社化し、今年で50年を迎えることとなりました。

これも長年にわたる諸先輩方、お客様方、関係各位みなさまのご尽力の賜であり、会社を代表致しまして、心から敬意と感謝を申し上げます。

昭和40年以前の歴史があることも承知しておりましたが、なかなか調べることもなく、法務局で法人登記の確認ができる昭和40年10月4日を創立日として、毎年創立記念事業を行って参りました。

しかし50年は節目でもあり、創立50周年記念誌を編纂しようと当社の歴史を遡ってみますと、創業者高橋吉助が昭和58年1月23日から数回、花巻鉄工会主催で講演会を行ったときの肉声テープが見つかり、高橋吉助の祖父まで遡る当社のルーツが分かって参りました。創業者高橋吉助の祖父は江戸時代末期花巻城の御用大工の立場にあり、100人扶持でお城の普請を担当し、明治5年に花巻城が廃城になるまで携わっていたようであります。

また、吉助の父高橋常吉は、明治中期～大正～昭和初期に高常組製作所と称し水車大工として名高く、花巻のみならず、北上、水沢、気仙沼、盛岡まで知られていたという記録もあります。

昭和13年に高橋常吉が没した後、昭和15年に長男高橋幸助、四男高橋吉助、五男高橋泰助が有限会社花巻鉄工所を創業し、主に農機具製造等を行い、戦時最盛期には従業員150名を超えていたとのこと。当時日本製鉄株式会社釜石製鉄所の協力会社となり、釜石製鉄所が艦砲射撃を受けて操業停止となった際に、国鉄花巻駅操車場の脇にあった当社工場において約2000tの平鋼、丸鋼、形鋼を預かっていたようです。終戦後は時代の荒波に翻弄され、激しい労働争議に耐えきれず、昭和24年に事業閉鎖。その後、高橋吉助が昭和

株式会社創立 50年、 鉄工業創業 75年、 建設業に携わって 150年。

26年に中央製作所として建築業、機械業、鉄構業を再開し、昭和40年に法人化したのが中央製作所の創立であります。

法人化後は、昭和42年に現在の花巻市宮野目に工場を移転、昭和48年に石油油脂販売業に進出、昭和50年に第二代社長に佐々木郁夫が就任し、鉄構業、建築業、石油油脂販売業をそれぞれ、株式会社中央製作所、中央建設工業株式会社、有限会社中央石油に分社化し、各社の経営を安定軌道に乗せました。

その後、平成14年に第三代社長に佐々木史昭が就任し、翌平成15年5月15日に中央製作所と中央建設工業を合併して、中央コーポレーションとして再スタートを切り、現在に至っております。

今年には会社組織になって50年が経過して2015年ですが、源流は江戸末期の1865年頃に遡ることができ、建設業に携わって150年という言い方も出来ると思います。また、昭和15年の鉄工業の創業から75年と言うことも出来ると思います。

また今年には、日本近代製鉄の父と言われる南部藩士大島高任が釜石橋野の地で洋式高炉を立ち上げ、良質な銑鉄の出銑に成功した1857年に始まる明治日本の産業革命が世界文化遺産に登録された記念すべき年であり、株式会社中央コーポレーションが創立50年を迎え、当社の歴史を振り替える契機となったことには大きなご縁を感じます。

数多くの方のご協力を頂き、株式会社中央コーポレーション創立50周年記念誌が無事刊行することができたことに心から御礼を申し上げますとともに、これからも弊社に末長いご指導ご鞭撻を賜りますことをお願い申し上げます。記念誌発刊にあたってのごあいさつとさせていただきます。

平成27年10月4日



ご祝辞

岩手県知事

達増 拓也 様

このたび、株式会社中央コーポレーションが記念すべき創立 50 周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴社は、昭和 26 年に中央製作所として創業、昭和 40 年に株式会社中央製作所として法人化された後、昭和 42 年には現在の花巻市宮野目に本社を移転、工場を新設され、鉄構事業の基礎を固められました。

平成 15 年 5 月には新しい時代のニーズに応える体制を整えられ、株式会社中央コーポレーションに商号変更されました。“顧客第一主義”「鋼と建設の高度な技術で社会に貢献します」を経営理念に掲げ、顧客・社員及び関係者・グループ企業がバランスよく満足できる経営を目指すことを基本方針として、地域に貢献する企業として、また、県内の鉄構業界の中心的企業としての歩みを進められております。

建設・建築用金属製品を製造する鉄構業界は、建築物や橋梁などの建設関連分野を担う基盤的な産業として、我が国の経済において重要な地位を占めており、貴社におかれましても経済社会の環境の変化に対応しながら、たゆまぬ努力により業界の経済的地位、社会的地位の向上に寄与してこられました。

さて、本県に甚大な被害をもたらした平成 23 年 3 月の東日本大震災津波から、4 年 7 か月余りが経過いたしました。本県では、平成 23 年 8 月に策定した「復興基本計画」に基づき、「安全の確保」「暮らしの再生」「なりわいの再生」の実現に向け、関係各位の御協力のもと、被災地の一日でも早い復旧・復興への取組を進めてまいりました。

本年は、岩手県の復興計画期間 8 年間の折り返

しの年であることから、本県では「本格復興邁進年」と位置付け、本格復興を力強く推し進めていくこととしており、被災地の一日でも早い復旧・復興を強力に推し進めていくためには、これまでにも増して適正な品質を備えた鋼構造物の安定的な製造と施工が求められております。

また、震災復興需要の増加に加え、2020 年のオリンピック・パラリンピックの東京開催の決定や耐震補強工事の増加などへの対応など、技術の高度化に対する要請も高まっており、建設関連分野での基盤的な産業として、貴社の担う役割に対する期待は、一層大きくなっていくものと考えております。

記念すべき創立 50 周年を契機として、これまで以上に関係する皆様が一丸となって、その英知と活力を結集され、適正な品質を備えた製品の安定的供給をはじめとした社会的使命の達成に向け、さらなる発展を遂げられますよう御期待申し上げます。

結びに、株式会社中央コーポレーションの御発展と、御参会の皆様への御健勝を心からお祈り申し上げます。お祝いの言葉といたします。



ご祝辞

花巻市長

上田 東一 様

創立 50 周年を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。

前身の株式会社中央製作所が昭和 40 年に設立以来、長年にわたって当市の地域産業の発展に寄与されてこられました歴代の社長をはじめ社員の皆様方に、衷心より敬意を表するとともに、お喜びを申し上げます。

御社は、鉄構事業として、橋梁・水門・陸閘・鋼コンクリート合成床板・携帯電話向け無線鉄塔等の設計、製作、架設据付、メンテナンスサービスなどを国や地方公共団体はもとより、JR 東日本、NEXCO 東日本、鉄鋼メーカーなど県内外への幅広い供給とともに、建築事業として、岩手中部地域における公共・民間の建築一式工事、システム建築、各種店舗のほか、クオリティホームとして、超省エネの高断熱住宅を提供されるなど、多岐にわたる事業経営には、目を見張るものがあります。

一方、昭和 40 年代から継続している国道 4 号沿線の環境美化活動により、国土交通大臣や地元である宮野目コミュニティ会議から表彰されるなど多数の表彰実績があり、また、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災以降、沿岸地域の復旧復興工事を積極的に受注され、震災復興の一翼を担っておられるなど、地域社会の一員としての様々な社会貢献活動は、市内企業の模範となっております。

花巻市発注の工事においては、太田橋や似内橋の上部工製作架設工事、天遊橋の上部工製作工事、朝日橋橋梁補修工事等の橋梁工事や総合体育館増築工事、石鳥谷消防分署庁舎新築工事等の建築工事ほか多くの工事を手掛けられ、当市のインフラ

整備に多大なる貢献をいただいております。

また、佐々木史昭社長には、私自身、花巻商工会議所地域開発委員会において、一緒に活動させていただいて以来、色々お世話になっております。佐々木社長は、花巻市における若手経営者のリーダーの一人として活躍いただいておりますが、特に花巻国際交流協会理事長として、花巻市の姉妹都市、友好都市との交流に多大なご貢献をいただいていることを高く評価するとともに、感謝している次第です。

結びに、株式会社中央コーポレーションと関係者の皆様のますますのご隆盛を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



ご祝辞

花巻商工会議所
会頭

宮澤 啓祐 様

株式会社中央コーポレーション様が創立 50 周年という大きな節目を迎えられ、本日ここに記念式典が盛大に挙行されますことに対し、心からお祝いを申し上げます。

ご案内のとおり、御社におかれましては、創業者であります高橋吉助様が戦前から鉄工業を経営され中央製作所の基礎を築かれ、昭和 40 年 10 月に株式会社中央製作所として法人化されて以来、半世紀にわたり地元の有力企業として歩まれ、今日、鉄構事業・建築事業に特化する企業として発展されており、衷心より敬意を表します。

この間、二代目社長の佐々木都夫様は、昭和 50 年に建築部門と油脂販売部門を分社化し、時代の先を読む経営に徹し、社業拡大に労を尽くされました。また、平成 14 年には、現社長の佐々木史昭様が社長に就任され、社業の拡大はもとより、当会議所活動に参画をいただいております。

御社の事業の中で、手掛けてこられた数多くの橋梁工事は、規模が大きく、美しく、技術に裏打ちされた力強さがあり、希少価値としての技術力の高さを窺わせます。

また、水門、鋼構造物、塔、建築事業と扱う業種も広範であり、御社には、お客様の要請を構造物・施設としての的確に形に現し、完成させる力と魅力があるように思います。

この 50 年間には、日本の高度経済成長期も含まれており、道路・橋梁・鉄道ほか、インフラ整備は時代とともに規模が大型化し、高い技術力が要求されるようになりましたが、御社におきましては、いち早く、社員の技術研鑽に力を注ぎ、時代を先取りし

ての対応がなされたと伺っており、御社には、100 年以上にも及ぶ創立前の先代の技術研鑽や事業に対する姿勢が、今日も息づいている証であろうと存じております。

さて、佐々木史昭社長様におかれましては、当会議所の 2 号議員・常議員、そして地域開発委員会副委員長として、会議所事業に積極的にご活躍いただき感謝をいたしております。

また、現在は、花巻地区鉄構工業会会長として業界の発展に尽力されておりますほか、花巻国際交流協会理事長、今年度の花巻ロータリークラブ会長に就任されており、多忙を極める方ではありますが、持ち前のバイタリティ、リーダーシップで、関係団体のトップとして役割を果たしておられ、関係の皆様に大きな期待があると存じております。

日本経済は、大手企業等に一部景気改善がみられるとの見方がありますが、地元経済は、当会議所景況判断を見ましても、改善までは至っていない状況にあります。当会議所といたしましては、中小企業の経営力強化と地域力向上のための活動強化を基本に、国・行政への建議、相談指導・研修会開催・金融あっせん、各種イベント開催など、引き続き、諸施策に取り組んで参る所存でありますので、御社のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、御社のますますのご発展と、本日も参集の皆様方の今後ますますのご活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。



ご祝辞

岩手県鉄構工業協同組合
理事長

小山田 周右 様

このたび、株式会社中央コーポレーションが創立50周年という記念すべき年を迎えられましたことは誠に喜ばしく、心よりお祝いを申し上げます。

貴社は昭和26年に創業、昭和40年に株式会社中央製作所として法人化され、以来今日まで弛まぬ技術の研鑽に取り組みながら、県民の暮らしを守る橋梁・水門等の優れた各種鋼構造物の製作に取り組まれてきたことに深く敬意を表します。また、先代社長の佐々木郁夫様には当組合第2代理事長として業界の健全な発展にご尽力を賜りますとともに、佐々木史昭代表取締役には、現在組合の副理事長として組合事業の円滑な推進に多大なるご支援ご協力をいただいております。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

遡れば江戸時代末期の花巻城御用大工に端を発する貴社のものづくり精神は、21世紀を迎えた今も連綿と受け継がれ、社員皆様の様々な資格の積極的な取得は言うに及ばず、国土交通大臣や岩手県知事、花巻市長の他元請各社からの数々の表彰や顕彰に表れております。

特にも近年では、次代を担う若手社員の技能向上の取り組みを積極的に推進され、平成23年5月には岩手県知事より「若手技能者育成に積極的な企業20選」に選定された他、平成25年以降3年連続で全国溶接技術競技会に選手を輩出するなど、着実にその成果が上がっており、当組合員企業の優れた見本となっております。

更に、貴社は地域との連携を重視され、水路整備のアドプト協定締結や創立記念日の橋梁清掃ボランティア活動、花巻まつり神輿パレードへの

参加など地域に根差した活動にも積極的に取り組まれております。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波では、即日社内災害対策本部を設置し、内陸部の被害調査を行うとともに、沿岸地域の水門・陸閘等数百ヶ所の被害調査・応急復旧に取り組まれたことは、これまでの地域貢献活動で醸成された貴社の「地域への想い」が結実した姿だったのではないかと感じております。

また、JR八戸線は発災から1年で全線復旧致しましたが、同線の鉄道橋復旧工事では、非常に高い難易度の工事に対してこれまで積み上げた技術と実績を如何なく発揮され無事完工に至り、沿線被災地域の復興に極めて大きな役割を果たされたことは、現在でも県内外より高く評価されております。

震災発生から4年8ヵ月が経過しようとしておりますが、資機材や各種技能者・技術者の不足等による様々な「遅れ」の影響により、被災地域の復興は道半ばであり、我々鉄構業界を取巻く環境も、大手企業の参入や県外企業による安値受注の影響等により、決して楽観できる状況にはありません。そのような中であればこそ、今後も共に手を携え県民の安心安全な暮らしの基礎となる確かな品質の鋼構造物の提供に努めて参りたいと考えております。

最後となりましたが、佐々木史昭代表取締役以下社員の皆様、これまで貴社を支えてこられた皆様の今後益々のご健勝とご活躍、株式会社中央コーポレーションの新たな歴史へ向けた更なる飛躍をお祈り申し上げます、お祝いの言葉と致します。



これまでの50年をこれからの50年に

東日本旅客鉄道株式会社
執行役員 構造技術センター所長

野澤 伸一郎 様

株式会社中央コーポレーション様、創立 50 周年まことにおめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

列車荷重が繰り返しかかる鉄道橋の桁は、お客様の安全を考えて特別な品質管理を実施しているため製作には手間がかかりますが、株式会社中央コーポレーション様には国鉄時代から製作していただいています。特に 2000 年頃からは、列車を通常通り走らせながら線路の下に道路や河川を構築するための工事で使用するエレメントの製作を、お願いするようになりました。このエレメントは断面が 1m 四角程度、長さは 3m の部材で、次々に連結しながら地中に挿入して、最後は橋梁を構築するためのものです。そのため列車荷重を受けても疲労しないように高度な溶接技術が必要になります。現在、このエレメントを製作できる会社は全国でわずか 4 社しかありません。

2011 年東北地方太平洋沖地震では、津波により流された八戸線大浜川橋梁の鉄桁を再利用するためにご尽力いただきました。大浜川橋梁は宿戸～陸中中野間に位置し、支間 9.75m の鉄桁が 4 連架かり、1925 年から使用されていました。津波により 4 連とも上流に流され、特に起点から 2 連目の桁は面外変形が大きい状況でした。また、海岸沿いに 85 年以上設置されていたため、一部の部材は腐食が進んでいました。八戸線の早期復旧に対しては大浜川橋梁の復旧がネックになっていたため、現地を預かる弊社盛岡支社や盛岡土木技術センターと打合せしながら、鉄桁は補修して再利用することにしました。これまで、鉄道橋梁において洪水で流された桁を

再利用した例や、自動車がぶつかって変形した桁を補修したことはありましたが、津波で流された桁を再利用した実績はありませんでした。亀裂など致命的な変状がなかったこと、SL に比べると現在の列車が軽量化されていることなどが、再利用を決断する決め手になりました。残された課題は、丁寧な補修ができる技術力でした。

この復旧工事はユニオン建設株式会社様に、桁の補修は株式会社中央コーポレーション様にお願いすることになりました。7 月に桁を花巻の工場に搬入すると、図面作成、材料手配、補修細部の提案を弊社で考えていたより迅速に対応していただきました。大きな変状は加熱矯正で新設桁と同様の規格値に戻すことになりましたが、温度チョークを用いた厳正な温度管理を実施して、新設と見間違えるほどきれいな桁に仕上がりました。2 連目の一部取り換えた部分の接合部も、ディテールを配慮して丁寧に組み立てられました。海水につかった桁は入念なブラストにより塩分が除去され、塩分測定後、塗装されました。約 3 か月で桁の補修が終了したおかげで、被災から 1 年後の 3 月に八戸線は全線開通させることができました。花巻の地で技術のある会社が震災復旧に全力で取り組んでいただいた結果は、東北地方だけでなく、日本全体に復興の勇気を与えてくれた、と思っています。

創立 100 周年に向けて、積み重ねた技術と信用を大切にして次の 50 年を切り開き、益々のご発展を祈念しております。



ご祝辞

株式会社横河住金ブリッジ
代表取締役社長

小山 清一 様

創立 50 周年、誠におめでとうございます。中央コーポレーション様には、私どもの会社の出身母体であります旧住友金属工業株式会社（現新日鐵住金株式会社、以下住友金属と略）時代から大変お世話になっております。これまでのご厚情に感謝致しますとともに、この良き日を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

佐々木史昭社長は、事業環境が最も厳しい時期に社長に就任され大変苦勞をされましたが、数々の経営改革を断行され今日の会社の繁栄を築いてこられました。鋭い経営感覚、果敢なチャレンジ精神と行動力にはますます磨きがかかっておりますので、新たな次の目標に向かってこれからも会社を引っ張っていかれることと思います。私どもも御社のお役に立てますよう引き続き努力して参りたいと考えております。

佐々木社長の経営手腕は、実は若き日の住友金属ご勤務時代にも大いに発揮されています。佐々木社長は昭和 61 年に東北大学工学部をご卒業され同年住友金属にご入社されました。ご配属先は建設エンジニアリング事業部、まさに私どもの会社のルーツの事業部でございます。住友金属が橋梁事業に進出しようとしていた時期で、新人佐々木史昭氏は、このできたての事業部で橋梁の設計から橋梁工場の管理までを担当され、8 年の間に数多くの素晴らしい業績を残されました。当社はこの事業部を母体に 6 年前分社化・設立した会社でございます。佐々木社長のご尽力がなければ現在の当社は存在していないかも知れません。ご一緒した同僚、後輩達は現在も当社で活躍しておりまして、当時のご指導に感謝している次第です。

一方、当時の住友金属が唯一佐々木社長のご恩に報いたことがございます。それは、最愛の奥様、啓子様とのご縁です。啓子様は昭和 56 年に現在の総理大臣安倍首相も学ばれた東京の名門成蹊大学をご卒業され、同じく住友金属にご入社されました。お二人の出会いは会社の硬式テニス部と伺っておりますものの、販売総括部という本社の中枢部署でご活躍されていた才媛啓子様をどのようにして射止められたかはなぞのままとして、平成元年に目出度くご結婚され、平成 6 年ご夫妻でこの花巻の地に戻って来られました。今日の中央コーポレーション様のご繁栄は社長をはじめ、役員、従業員の皆さま方の日頃のご努力の賜物と存じますが、啓様様の支えは佐々木社長の大きな力になっていたことは間違いなくと思っています。

現在は二人の美しいお嬢様に恵まれ、充実した日々を過ごしておられることと思いますが、次の 100 年に向けてそろそろ後継者のご準備も必要な時期になってきているかと拝察しております。お二人のお嬢様にも期待しつつ、中央コーポレーション様のこれからのますますのご発展を祈念致しまして、私のご挨拶とさせていただきます。